

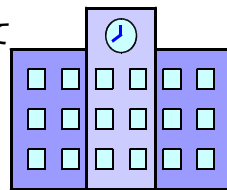
『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その4

今号では『日常授業の改善に直結する校内研究の充実』について紹介させていただきます。今年度本校では

『主体的に学び、考えを表現し、伝え合う児童の育成

～国語科・算数科における言語活動を充実させた授業づくり～』

の研究主題のもと、全教職員で知恵を出し合って児童に「確かな学力」を身に付けさせるための授業づくりや指導法について研究を進めているところです。ただし、研究と言っても、特別なことをしようということではなく、1時間1時間の授業を大切に行うこと（授業で勝負）をベースに、日常の授業に意図的に言語活動を取り入れて、児童に考えを表現したり伝え合うことの楽しさを実感させることを主なねらいとしています。そのためには、学習課題に対して、じっくりと考え、言葉や式等で表す時間を保障することが大切と考えます。



また、今年度は附属函館小学校との連携も図り、助言をいただきながら校内研究の充実を図っています。6月19日には、附属小学校から講師として3名に來校いただき、校内研究の効果的な推進の仕方について学ばせていただきました。また、本校の教職員が3つのグループに分かれて考えを書いたり、それを基に交流したりする活動を実体験することで、授業づくりの大きなヒントも得ることができました。新たな研究の1年目を進んでいる本校にとっては、大変心強い存在です。



さらに、日常の授業の評価をなるべく短い周期で行い、よりよい授業づくりに生かすために、授業に関わる児童アンケートを実施しました。全校的なデータになりますが国語科と算数科について下記のような結果になりました。

国語の勉強は好きですか？	とても好き	40人	どちらかといえば好き	28人
	どちらかといえば好きではない	22人	好きではない	6人
算数の勉強は好きですか？	とても好き	55人	どちらかといえば好き	23人
	どちらかといえば好きではない	8人	好きではない	9人
国語の勉強は分かりますか？	とても分かる	43人	どちらかといえば分かる	39人
	どちらかといえば分からない	12人	分からない	2人
算数の勉強は分かりますか？	とても分かる	49人	どちらかといえば分かる	36人
	どちらかといえば分からない	7人	分からない	3人

「好きではない」「分からない」と感じている児童を「好き」「分かる」と回答するような「楽しく、分かる」授業づくりが我々の大きな使命です。校内研究の小さな積み重ねを日常の授業実践に生かしていくよう努めて参りたいと思います。



7月5日(金)には、今年度1回目の授業研究を近隣小学校(江小・江北小)の先生方も招いて実施しました。学年は4学年、教科は算数でした。この時間は文章問題2問に取り組みました。1問目(きよしさんとあきこさんは60枚の色紙を2人で分けます。あきこさんの方が12枚多くなるようにします。それぞれの色紙の枚数は何枚ですか)については、全員でテープ図を基に話し合いながら「まず～をします。」「次に～をします。」「最後に～で答えは〇〇です。」の順序で解答を導き出し『ちがひ』に着目すればよいことを確認しました。続いて少しレベルの高い2問目(1

20cmのリボンを3本に切りました。3本のリボンは10cmずつ長さがちがっています。3本のリボンの長さはそれぞれ何cmですか)については、4つのグループに分かれ、自分の考えを伝え合いながらグループとしての考えをまとめていきました。各グループ、試行錯誤しながらも1問目の解き方を活用しながら積極的に話し合いを行い、最後には、正解を導き出す考えをまとめることができました。最後には各グループが堂々と黒板の前で自分たちの考えを説明しました。4学年の教室では、学習規律がしっかりと身に付いている中で、教室中に意欲的に、積極的に挑戦しようとする力で溢れています。これは、日常の授業で子どもたちが自分の意見を聞いてもらえる、認められているという信頼関係の成果と考えます。

今後も、校内研究を充実させながら、子どもに「考えるって楽しい!」と思わせるように、日常の授業改善に努めていきたいと考えます。